

(別添4)

## 【香川県】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和6年6月に、県及び県内の学校設置者が構成員である香川県GIGAスクール構想推進協議会において、本県における「ICT環境によって実現を目指す学びの姿」を、「香川の どこでも 誰もが 質の高い教育を受けられる」ことに定めた。

#### 2. GIGA第1期の総括

コロナ禍においても学びを保障するため、急ピッチで学校ICT環境の整備を完了させたところであるが、各設置者が独自に整備を行ったこともあり、県立学校と市町立学校でICT環境に差が生まれており、ICT活用の取組状況等も異なっている。

特に、県立中学校は、市町立中学校からの人事異動で配属となった教員が勤務するため、その環境差に戸惑う教員がいることも事実である。

GIGA第2期に向けては、児童生徒1人1台端末の共同調達等を端緒とし、県内の設置者間・学校間のICT環境及びICT活用状況の差をなくすことが、「香川の どこでも 誰もが 質の高い教育を受けられる」ことを実現する上での課題である。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

##### 【総論】

本県では、児童生徒が、ICTを受け身に捉えるのではなく、主体的に活用することで、より良い社会を創っていける人材に育つことを目指す。

そのために、児童生徒1人1台端末環境の継続をはじめとした、学校教育において児童生徒が日常的にICTを活用できる環境の整備、また、授業等での適切かつ効果的な活用と児童生徒の主体的な活用を経て、未来の社会で生きていくために必要な資質・能力を育む。

##### 【1人1台端末の積極的活用】

授業等での端末等のICT機器を、教員が「教えるための道具」として活用することに加え、児童生徒が「学ぶための道具」としても積極的に活用していくことで、児童生徒の資質・能力の育成に資することができると思う。

そのためには、1人1台端末を、教員の指示により活用するだけでなく（児童生徒の発達段階等によっては必要な場面もある）、活用の仕方を子どもに委ね、端末をいつ、どのように使うかは児童生徒自身が決められるようにすることが重要であり、そのような授業等への転換を目指す。

#### 【個別最適・協働的な学びの充実】

従来の授業を見直し、個別最適な学びと協働的な学びを実現することによって、児童生徒の資質・能力の育成を目指す。

特に、令和6年度から複数年かけて、全ての県立学校の普通教室に電子黒板を整備予定としており、児童生徒が発表する場面等での活用も期待できる。

#### 【学びの保障】

ICTの持つ特性を最大限活用して、様々な理由により登校が難しい児童生徒や、障害等により特別な配慮や支援が必要な児童生徒に対するきめ細かな対応を行い、「全ての子どもたちの可能性を引き出す」ことを目指す。